

---

## 11 品目別調査結果 ピーマン

---

1. 概況
2. 調査実施概要
3. 各取引段階の“量”の変化
4. 各取引段階の“価格”の変化
5. 福島県産品に対する認識

---

# 1. 概況

---

329

## 調査結果概要 (1/3)

---

### 1. 各取引段階の“量”の変化

#### 出荷段階

- 福島県産ピーマンの作付面積と出荷量は、震災以降、減少傾向にある。
- 特に出荷量は、震災前の約71%程度の水準まで落ち込んでいた。

#### 卸売段階

- 福島県産ピーマンは、主に首都圏で取り扱われており、少量であるが関西圏でも流通している。北海道や名古屋といった地域にはほぼ流通していない。
- 東京中央卸売市場において、7月～10月の期間は他の時期に比べて福島県産ピーマンのシェアが増え、東京中央卸売市場での取扱量は最大14%を占めている。

330

## 2. 各取引段階の“価格”の変化

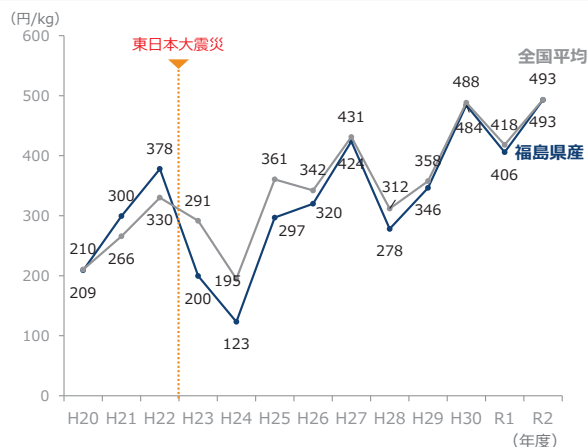
### 市場における状況

- 東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンの価格は、震災後に全国平均の価格ポジションを下回るようになった。
- 震災後4年間は、明確に競合県産よりも安い価格で推移していた。
- 近年では、他県産とおおむね同程度の水準まで回復している傾向にある。

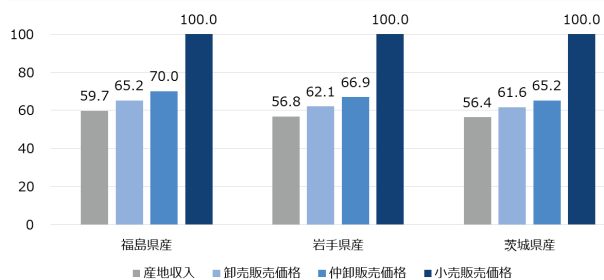
### 個別事例における状況

- 首都圏で福島県産ピーマンと岩手県産ピーマンを併売する小売業に至る流通経路を対象に、流通段階ごとの取引価格を調査した。
- 岩手県産・茨城県産の価格形成と比較すると、すべての段階で取引価格は、福島県産と近い値であった。
- 産地によって価格を変えると手間が生じるため、小売業者は産地が異なっても同一の価格を設定している。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



ピーマンの価格形成事例



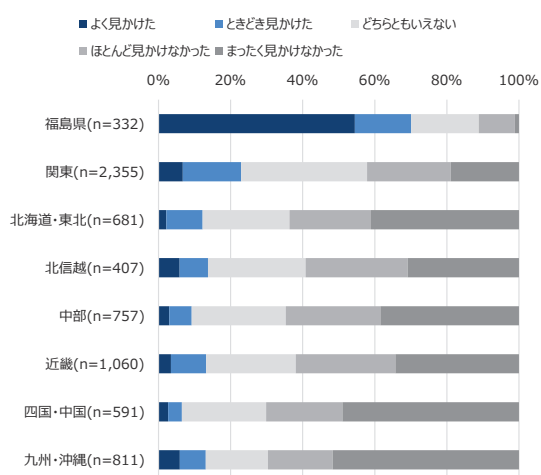
※数値は小売販売価格を100とした指数。

## 3. 福島県産品に対する認識

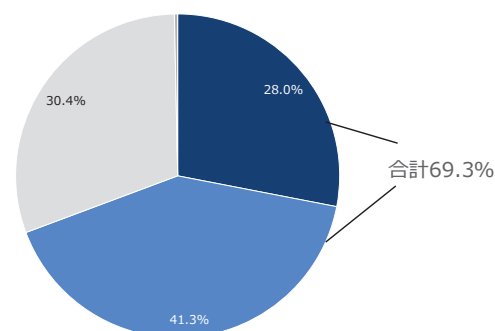
### 消費者への調査

- 福島県産ピーマンをよく見かけたという人の割合は、福島県で約55%である一方、他の地域では10%に満たなかった。
  - 福島県産ピーマンを買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では5.7%であった。
- 福島県産ピーマンの購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が69.3%であった。

福島県産ピーマンを店頭で見たか



福島県産ピーマン購買者の評価 (n=600)



## 2. 調査実施概要

333

調査の全体像

概要調査として政府統計等を整理し、全体像を把握した。また、消費者へのアンケート調査により、消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握した。さらに、取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析した。

	概要調査	アンケート調査	追跡調査
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計情報を整理し、生産・流通の実態を把握。</li> <li>市場での動向については、競合県産品との比較分析を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問面接により取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析する。</li> <li>他県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。</li> </ul>
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政機関の政府統計。</li> <li>卸売市場データ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国の消費者。 (11,000人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>袋入りのピーマン。</li> <li>福島県産以外に他県産も扱う事業者を対象に含める。</li> </ul>
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県産ピーマンの出荷量。</li> <li>卸売市場における取扱量と、競合県産品と比較したシェアの推移。</li> <li>卸売市場における取引価格の競合県産品との比較。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県産ピーマンの視認経験。</li> <li>福島県産ピーマンの購買経験。</li> <li>ピーマン購買時の重視点。</li> <li>福島県産ピーマンの評価。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流通ルートを抽出し、取引価格の追跡調査(各取引段階における関係者からの個別データ収集)を行う。</li> </ul>
各節との対応	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">各取引段階の“量”の変化</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">各取引段階の“価格”の変化</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">福島県産品に対する認識</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">各取引段階の“価格”の変化</div>

334

各データを入手・分析し、最新の傾向を比較した。アンケート調査と追跡調査については、独自に情報を収集した。

---

概要調査  
使用データ

- 農林水産省「野菜生産出荷統計」。
- 首都圏・関西圏・名古屋・札幌の各市場の統計データ。

アンケート  
調査

- 全国の消費者にWebアンケート調査を実施。
  - 11,000件を回収・分析を実施した

追跡調査

- 首都圏の小売業に至る2ルートと、福島県内の小売業に至る1ルートを対象とし、事業者を訪問して価格データを収集。
- 首都圏の1ルートでは競合県産品の価格データも収集。

---

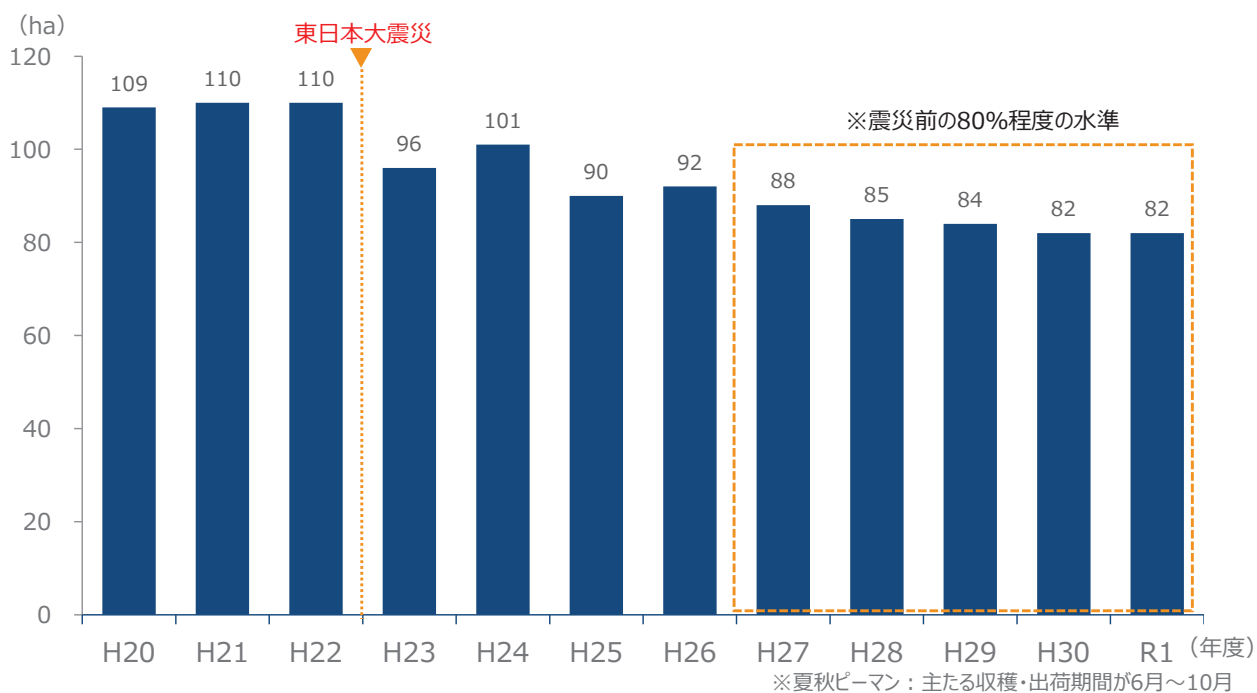
### 3. 各取引段階の“量”の変化

---

## 福島県産夏秋ピーマンの作付面積の推移

福島県産夏秋ピーマンの作付面積は、震災直後に約10%減少した。その後一時的に回復した年があったものの、全体的に微減が続いており、現在は震災前の約80%となっている。

福島県産夏秋ピーマンの作付面積の推移



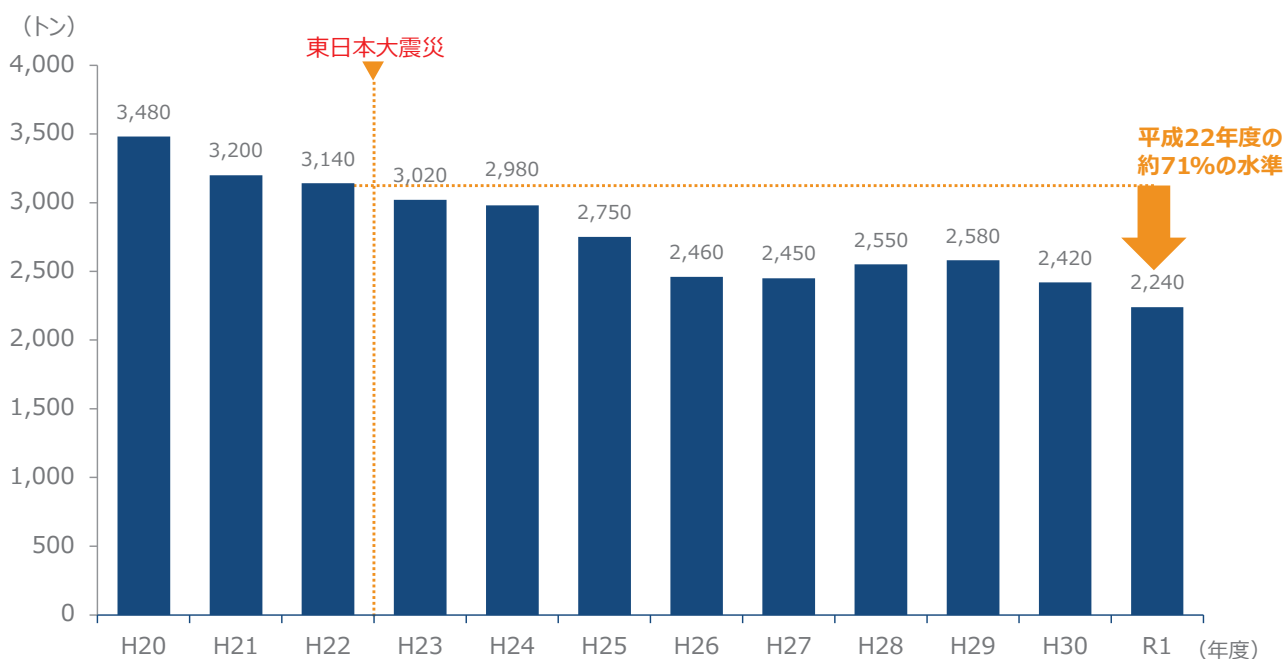
データ出所：農林水産省「野菜生産出荷統計」

337

## 福島県産夏秋ピーマンの出荷量の推移

福島県産夏秋ピーマンの出荷量は減少傾向にあったが、平成26年度以降はおおむね横ばいで推移している。令和元年度の出荷量は、平成22年度の約71%であった。

福島県産夏秋ピーマンの出荷量の推移

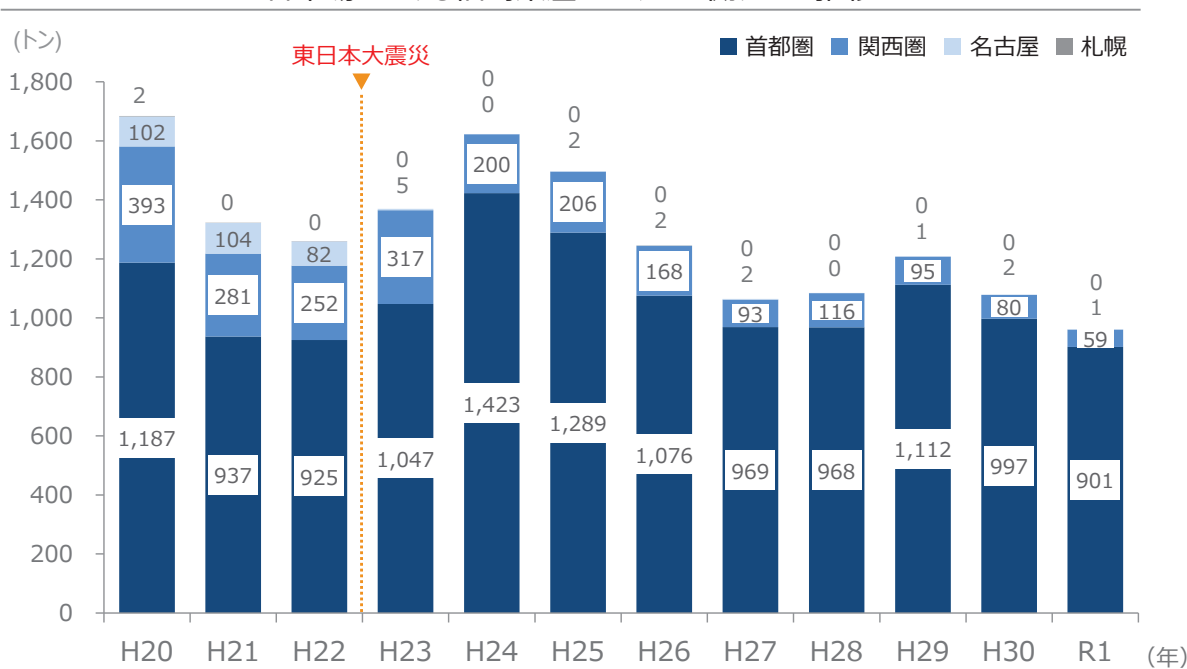


データ出所：農林水産省「野菜生産出荷統計」

338

**福島県産ピーマンは、主に首都圏で取り扱われており、少量であるが関西圏でも流通している。**

各市場における福島県産ピーマンの取扱量の推移



データ出所：各卸売市場の提供データ及び農畜産業振興機構「野菜情報総合把握システム」

数値ラベルは、下から首都圏、関西圏、名古屋、札幌の取扱量を表す

各市場におけるピーマンの産地リレー(令和元年産・首都圏)

**東京中央卸売市場、横浜市中央卸売市場のいずれにおいても、7月～10月の期間は他の時期に比べて福島県産ピーマンのシェアが増加。それ以外の月では、福島県産ピーマンの取扱いはほとんど見られなかった。**

各市場における産地リレー(令和元年産)

各月で市場シェア1位～3位の順に  
■ ■ ■ で色付け

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	14%	11%	7%	1%	0%	837
茨城	14%	17%	33%	49%	68%	83%	56%	22%	37%	60%	46%	28%	11,164
宮崎	47%	48%	34%	27%	16%	6%	4%	0%	0%	3%	27%	39%	4,458
岩手	0%	0%	0%	0%	0%	4%	27%	53%	43%	23%	4%	0%	3,288
高知	24%	20%	20%	15%	11%	5%	2%	1%	1%	3%	13%	19%	2,410
鹿児島	14%	15%	12%	9%	5%	0%	0%	0%	0%	1%	8%	13%	1,367
総量	1,316	1,445	1,746	2,426	2,802	2,441	1,880	2,180	2,263	2,211	2,048	1,510	

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	5%	4%	1%	0%	0%	64
茨城	7%	11%	20%	27%	49%	66%	39%	15%	21%	40%	37%	14%	1,458
高知	39%	39%	37%	31%	17%	11%	3%	0%	1%	4%	29%	33%	841
岩手	0%	0%	0%	0%	0%	6%	28%	53%	51%	35%	4%	0%	812
鹿児島	34%	34%	26%	28%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	11%	26%	625
韓国	10%	11%	14%	12%	10%	14%	16%	9%	3%	7%	11%	19%	518
総量	259	267	353	480	545	421	393	494	494	421	339	275	

※福島県及び年間取扱量上位県を表示。  
※総量・合計の単位はトン。

データ出所：各卸売市場の提供データ及び農畜産業振興機構「野菜情報総合把握システム」

各市場におけるピーマンの産地リレー(令和元年産・関西圏)

大阪市中央卸売市場では、7月～9月にかけて少量ながら取引されていた。京都市中央卸売市場では、8月～10月にかけて福島県産ピーマンの取扱いはわずかであった。

各市場における産地リレー(令和元年産)

各月で市場シェア1位～3位の順に

■ ■ ■ で色付け

大阪市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	4%	2%	0%	0%	0%	43
宮崎	40%	41%	38%	39%	37%	23%	6%	2%	2%	12%	36%	41%	1,667
高知	29%	28%	23%	22%	24%	27%	12%	4%	2%	10%	22%	22%	1,198
韓国	15%	17%	20%	16%	16%	17%	17%	13%	12%	8%	13%	23%	1,032
青森	0%	0%	0%	0%	0%	0%	17%	29%	34%	33%	5%	0%	757
茨城	0%	0%	6%	10%	13%	16%	4%	2%	8%	11%	4%	0%	480
総量	355	409	473	679	749	642	580	726	645	629	506	402	

京都市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	2%	2%	0%	0%	16
宮崎	51%	54%	40%	50%	42%	20%	6%	4%	2%	10%	40%	40%	1,133
大分	0%	0%	0%	0%	4%	26%	63%	51%	40%	24%	7%	7%	815
茨城	0%	0%	15%	15%	20%	24%	6%	10%	30%	37%	17%	17%	697
高知	27%	21%	18%	17%	23%	20%	5%	1%	1%	8%	19%	19%	587
韓国	7%	12%	16%	10%	9%	9%	8%	8%	4%	5%	9%	9%	346
総量	180	224	281	415	447	456	363	356	337	368	303	303	

データ出所：各卸売市場の提供データ及び農畜産業振興機構「野菜情報総合把握システム」

※福島県及び年間取扱量上位県を表示。  
※総量・合計の単位はトン。

341

各市場におけるピーマンの産地リレー(令和元年産・その他)

名古屋市中央卸売市場は、年間を通して福島県産ピーマンの取扱いはほとんど見られなかった。札幌市中央卸売市場は年間を通して取扱いは見られなかった。

各市場における産地リレー(令和元年産)

各月で市場シェア1位～3位の順に

■ ■ ■ で色付け

名古屋市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1
鹿児島	61%	56%	56%	48%	38%	0%	0%	0%	0%	9%	41%	50%	1,715
宮崎	31%	32%	31%	28%	29%	26%	21%	9%	1%	5%	26%	33%	1,329
茨城	0%	0%	1%	11%	22%	42%	28%	3%	18%	41%	18%	3%	1,013
高知	8%	12%	13%	13%	11%	28%	11%	1%	1%	8%	14%	14%	668
北海道	0%	0%	0%	0%	0%	2%	25%	36%	31%	13%	0%	0%	509
総量	349	367	415	693	733	548	459	484	439	525	509	393	

札幌市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
北海道	0%	0%	0%	0%	0%	61%	99%	100%	99%	93%	28%	0%	1,097
宮崎	94%	91%	90%	86%	65%	30%	1%	0%	0%	5%	66%	91%	839
高知	5%	7%	9%	7%	16%	2%	0%	0%	0%	0%	5%	8%	84
茨城	0%	0%	1%	7%	18%	8%	0%	0%	0%	2%	2%	0%	68
鹿児島	1%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5
総量	89	101	126	197	182	186	290	283	222	169	127	123	

データ出所：各卸売市場の提供データ及び農畜産業振興機構「野菜情報総合把握システム」

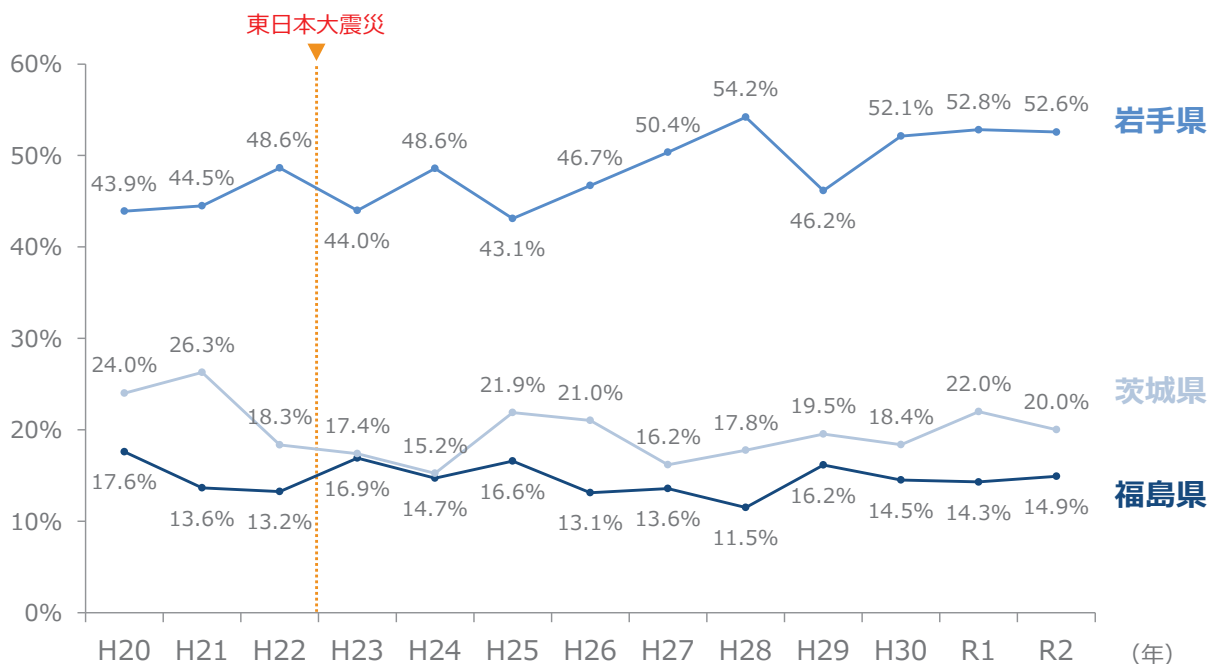
※福島県及び年間取扱量上位県を表示。  
※総量・合計の単位はトン。

342



**東京都中央卸売市場の8月の福島県産ピーマンは、震災前からシェアが大きく変動しておらず、15%前後のシェアで推移している。**

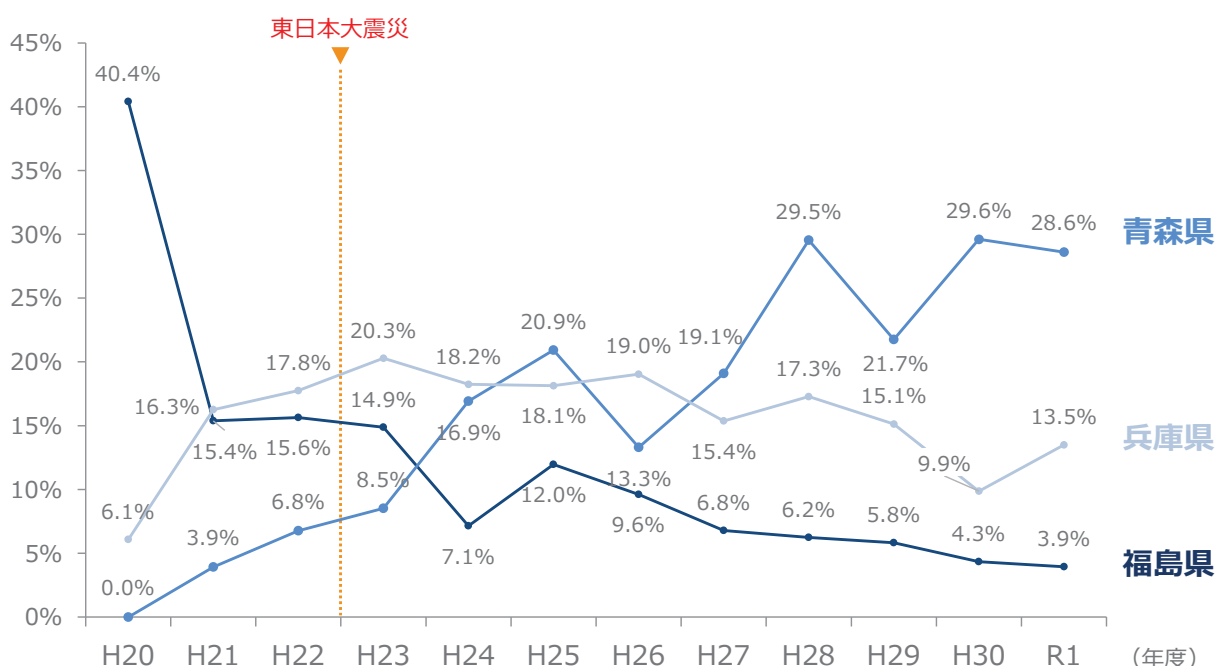
東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産のシェア(8月)



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

**大阪市中央卸売市場の8月の福島県産ピーマンは、震災以降、徐々にシェアが減少している。一方で、震災前は福島県産よりもシェアの低かった青森県産は、継続して増加しつつも令和元年では横ばいに推移している**

大阪市中央卸売市場における福島県産及び競合県産のシェア(8月)



データ出所：大阪市中央卸売市場からの提供データ

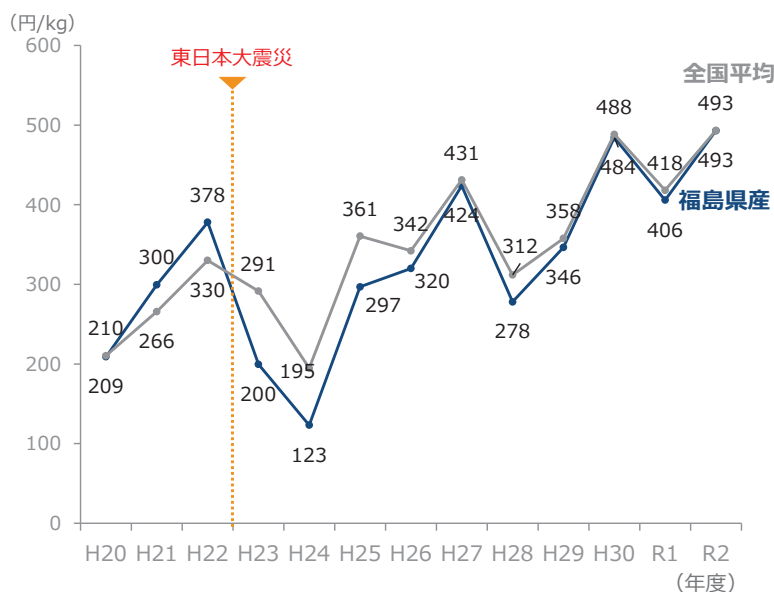
## 4. 各取引段階の“価格”の変化

345

価格の概況（全国平均との価格差）

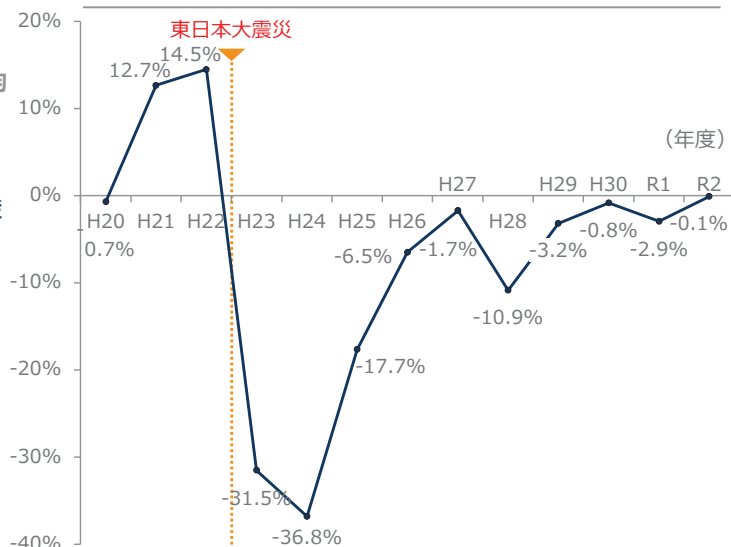
**東京都中央卸売市場での福島県産ピーマンの平均単価は、平成29年度から令和2年度にかけて、全国平均に近い水準で推移。また、福島県産ピーマンの価格は震災前よりも上昇している。**

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



※令和2年度は、令和2年12月までの実績を使用。

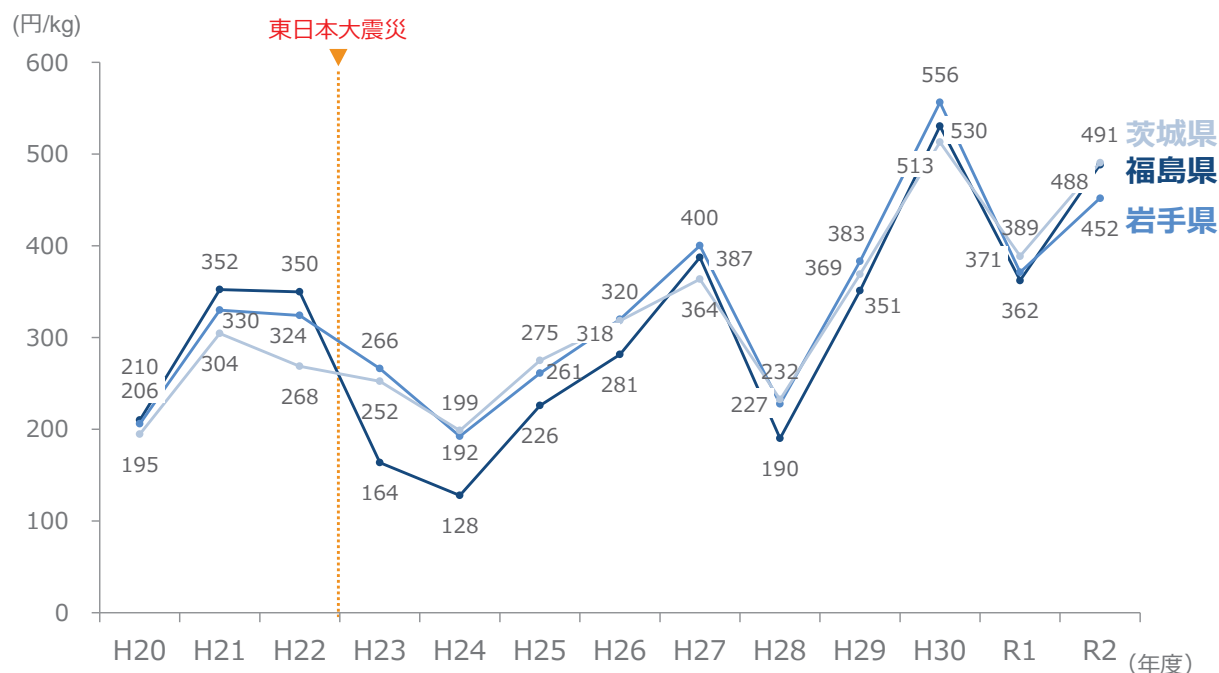
全国平均と福島県産の価格差の推移



※福島県産と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。  
例えば、福島県産が全国平均より1割安ければ-10%となる。

東京都中央卸売市場の8月の福島県産ピーマンの平均単価は、震災後、岩手県産・茨城県産よりも低い水準で推移していたが、近年では同程度の水準である。

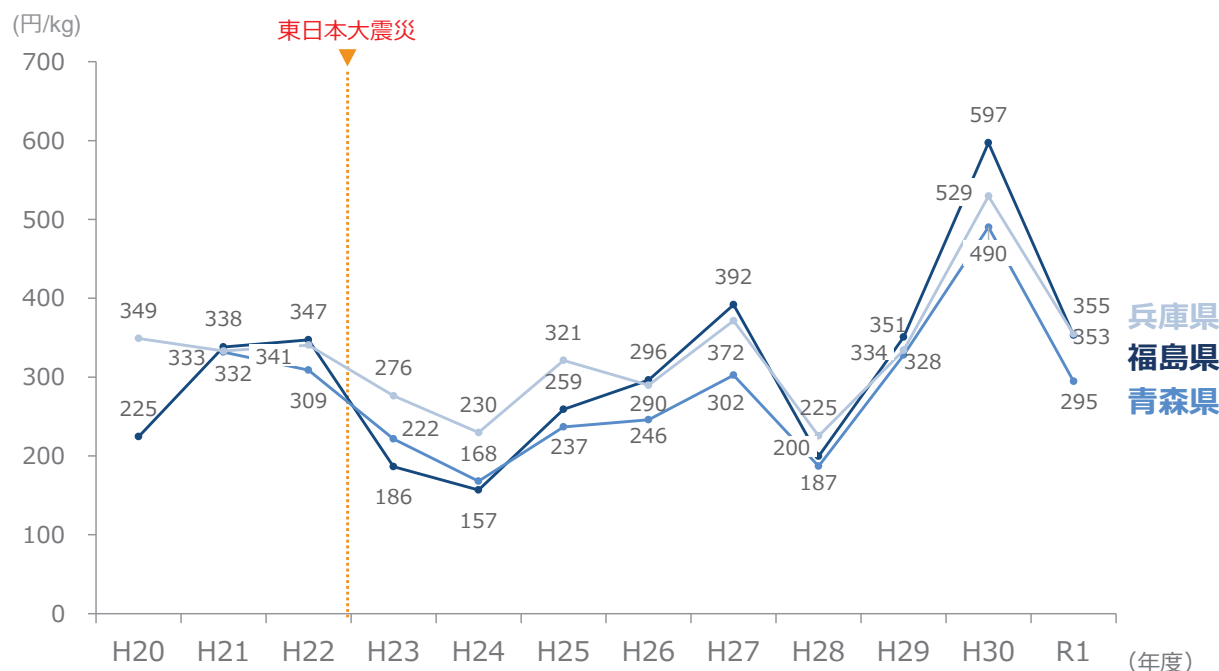
東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産の平均単価(8月)



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

大阪市中心卸売市場の8月の福島県産ピーマンの平均単価は、震災直後に兵庫県産・青森県産を下回る水準となった。その後、価格ポジションは変化し、令和元年はこれらの産地のピーマンと同程度の平均単価となった。

大阪市中心卸売市場における福島県産及び競合県産の平均単価(8月)



データ出所：大阪市中心卸売市場からの提供データ

※平成20年は青森県のデータがないため、掲載していない。

## 価格形成に関する事例調査(追跡調査)を行い、福島県産ピーマンの価格形成に関する分析を実施した。

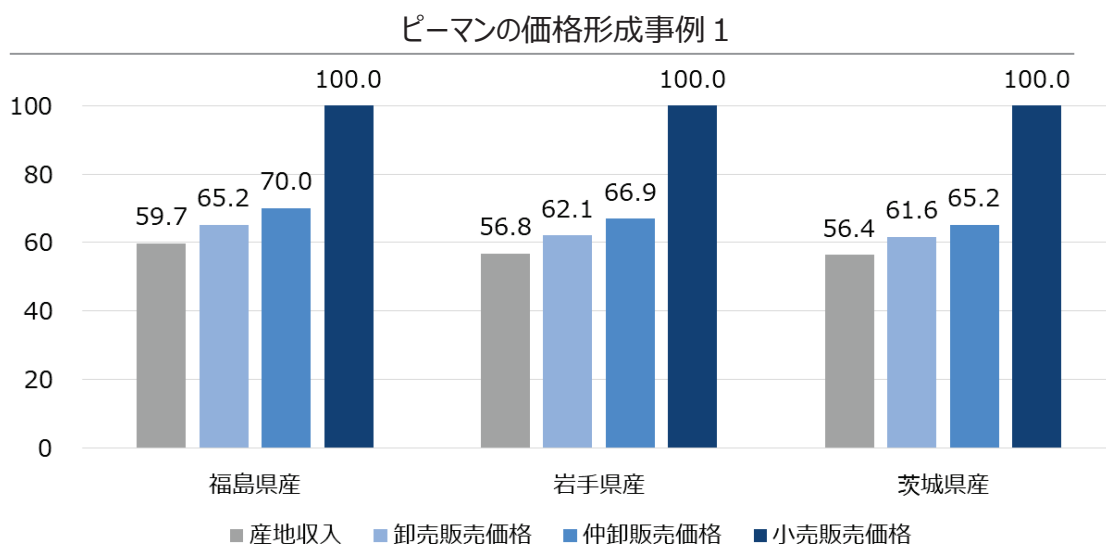
### 概要

概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る情報を収集し、価格形成の実態を把握する。</li> <li>他県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。</li> </ul>
対象商品	<ul style="list-style-type: none"> <li>袋入り150gのピーマン。</li> </ul>
対象期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>期間：令和2年8月</li> </ul>
調査ルート	<ul style="list-style-type: none"> <li>首都圏内の小売業へ流通するルート：2ルート。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>うち1ルートは競合産地産の価格も収集。</li> </ul> </li> <li>福島県内の小売業へ流通するルート：1ルート。</li> </ul>

349

### ピーマンの価格形成事例 1

- 首都圏の小売業者に至る事例。
  - 本事例の小売業者は特売時を除き、調査時期にピーマンの販売価格を固定していた。
  - 卸売業者は委託手数料率8.5%で委託販売していた。そのため産地収入は、卸売価格に比例している。
  - 岩手県産・茨城県産の価格形成と比較すると、すべての段階で取引価格は、福島県産と近い値であった。
    - 産地によって価格を変えると手間が生じるため、小売業者は産地が異なっても同一の価格を設定。
    - 卸売業者と仲卸業者の販売価格も基本的に産地によって変えてはならず、一部で集荷のために福島県産品の価格が高くなることがあった。



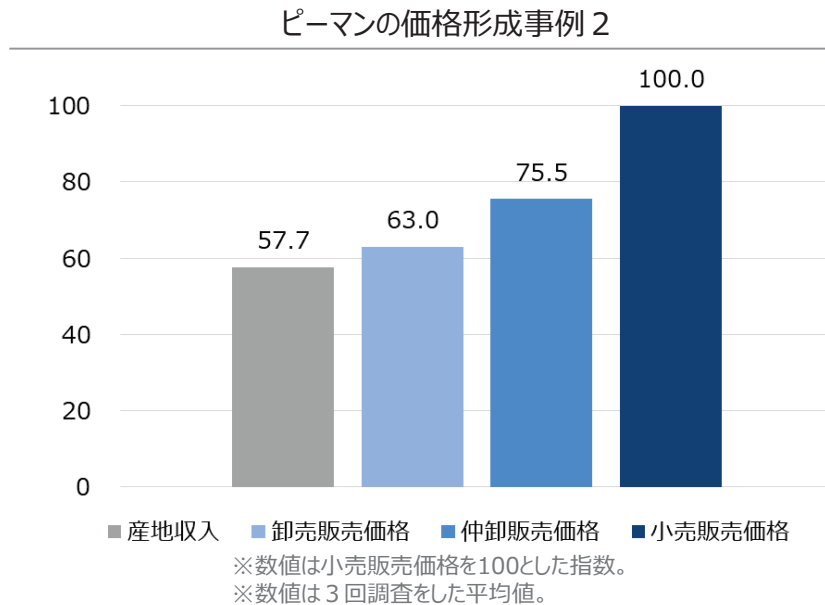
※数値は小売販売価格を100とした指数。

※福島県産、岩手県産、茨城県産それぞれ3回調査をした平均値。

350

## ピーマンの価格形成事例 2

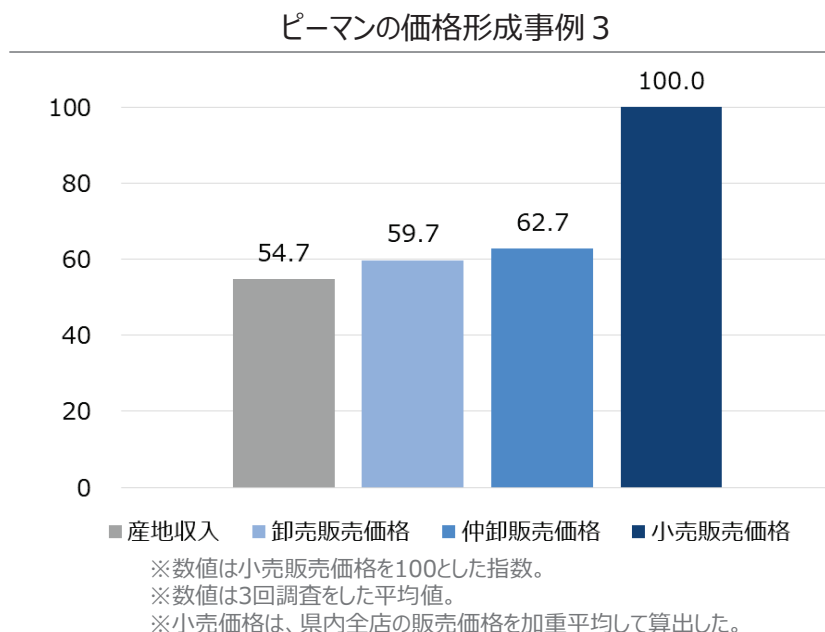
- 首都圏の小売業者に至る事例。
  - 小売業者と仲卸業者の販売価格は相場によって変動していたが、卸売業者は委託販売をしており委託手数料率は8.5%で固定。
  - 事例 1 と同様に、産地収入は卸売販売価格に比例する。



351

## ピーマンの価格形成事例 3

- 福島県内の小売業者に至る事例。
  - この事例では、小売業者は価格設定を店舗に任せており、店舗によってマージンは異なる。
  - 仲卸業者は、常に卸売業者からの仕入価格に5%を乗せて小売業者に販売。
    - 商談は卸売業者と小売業者で行っており、仲卸業者の利幅は価格水準に関わらず固定されている。
  - 卸売業者は委託販売をしており、産地によらず委託手数料率は8.5%で固定。
- 事例 1、2と同様に、産地収入は卸売販売価格に比例する。



352

**いずれの事例でも卸売業者は委託販売をしており、産地収入は卸売業者の販売価格に比例していた。また、競合産地との比較では、価格形成に明確な違いは見られなかった。**

---

- 各事例の共通点として、産地の収入は卸売販売価格に比例していた。
  - すべての事例で、卸売業者は委託販売をしており、委託手数料率は8.5%で固定されていた。
  - 事例によって小売業者や仲卸業者のマージンは異なるが、それらに関わらず、産地収入は卸売業者の販売価格に比例している。
  - 産地収入を上げるためには、卸売業者に高く売ってもらうことが重要といえる。
  
- 今回調査した事例では、競合産地との明確な違いは見られなかった。
  - 産地によって価格を変えると手間が生じるため、小売業者は産地が異なっても同一の価格を設定していた。また、卸売業者や仲卸業者のマージンも、基本的には競合産地と同一であった。

---

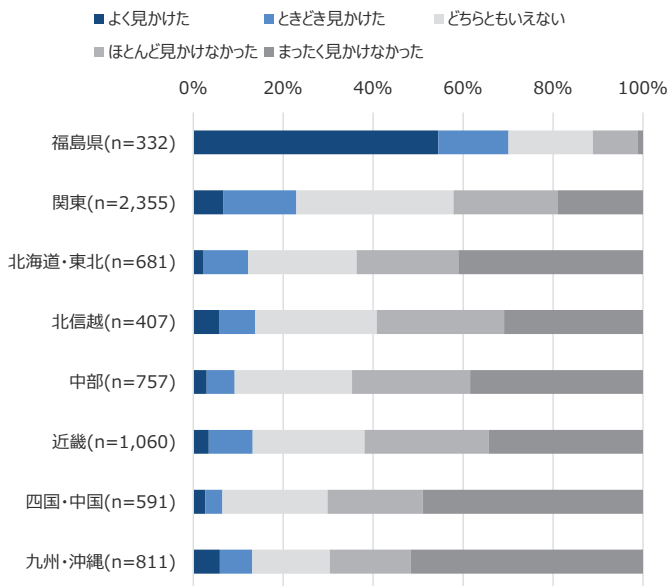
## 5. 福島県産品に対する認識

---

## 福島県産ピーマンを見た経験と購買経験（消費者アンケート）

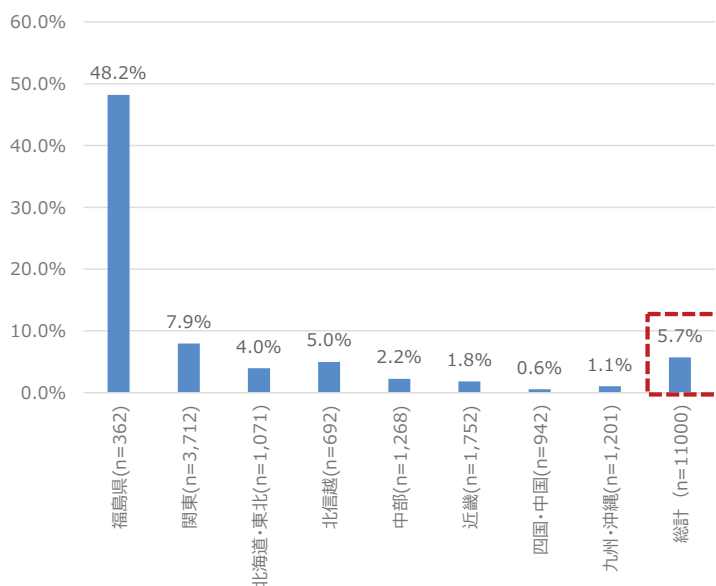
**福島県産ピーマンをよく見かけた人の割合は、福島県で高く、他の地域では10%に満たない。福島県産ピーマンを買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では5.7%であった。**

福島県産ピーマンを店頭で見つけたか



※過去1〜2年に、店頭で福島県産ピーマンを見た記憶を尋ねた。  
※nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。

福島県産ピーマンの購買経験率



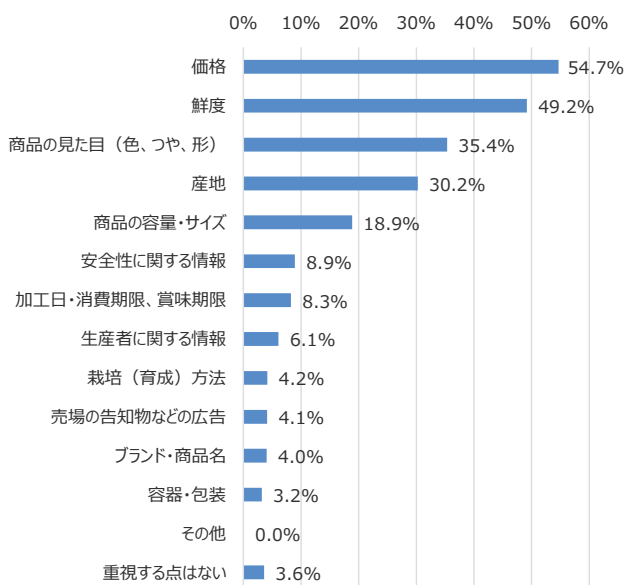
※購買経験率=1度でも購買したことがある人数/回答者数  
※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買ってれば購買経験なしとなる。

\*本頁及び次頁は、平成27年国勢調査における年代別人口比と合わせるため、ウェイトバック集計をしている。

## ピーマン購買時の重視点と、購買者の評価（消費者アンケート）

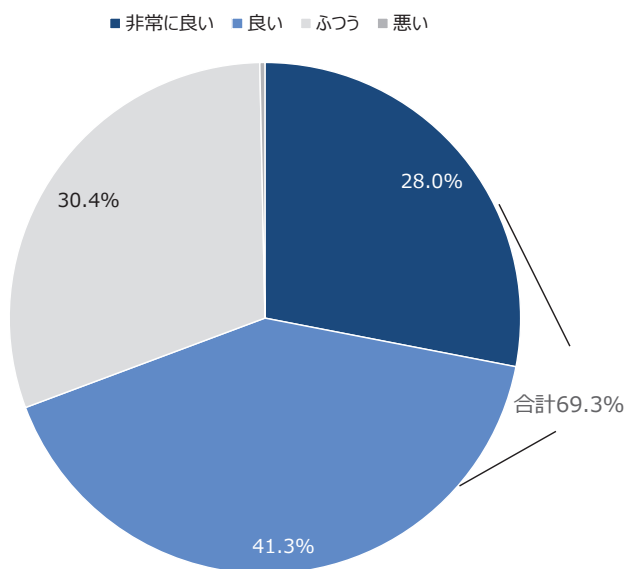
**福島県産に限らずピーマン購買時の重視点を尋ねたところ、「価格」と「鮮度」が上位にあり、次いで「商品の見た目」と「産地」があがった。福島県産ピーマンの購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が69.3%であった。**

ピーマン購買時の重視点（n=8,506、複数回答）



※ピーマン購買時の重視点は、福島県産に限らない質問。  
※月に1回以上ピーマンを購買している回答者のみに尋ねた質問。

福島県産ピーマン購買者の評価（n=600）



※福島県産ピーマンを買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。  
※選択肢には「非常に悪い」という選択肢があったが、本設問では「非常に悪い」を選択した回答者はいなかった。